

# チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

## 今年度最後の「障害理解推進」出前授業



秋田市立港北小学校では、3年生の総合的な学習の時間に福祉教育を取り上げている。昨年度に引き続き、出前授業を通して障害に関する正しい知識や相手の気持ちになって行動する大切さを伝えた。毎回、出前授業の前に、相手校の担当者と打合せを行っているが、ほとんど本校の考えた計画に沿って実施することが多かった。今回は、これまで取り組んだ学習内容も踏まえ、当日の授業の構成や事後学習まで検討を重ね、両校で役割分担をしながら授業を進めた。

### ○港北小学校3年生 総合的な学習の時間の計画 テーマ「えがおを見付けよう」

- 1 まち探検で、バリアフリーになっているところや物を探す。
- 2 秋田市社会福祉協議会の方の協力を得て、「バリアフリー教室」での体験・講話  
内容→車いす体験 視覚障害者体験 高齢者体験 バリアフリー座学
- 3 自分の身の回りのバリアフリーを見付けてまとめる。
- 4 点字の体験、点字の本に触れる。
- 5 聞こえが不自由な人の生活についての講話・手話や指文字の体験
- 6 車いすから見える世界（NHKの放送を活用）
- 7 盲導犬にできること（NHKの放送を活用）
- 8 「相手の気持ちになって行動しよう」～大きい目とやさしい口～ 担当：天王みどり学園
- 9 1年間のまとめ



### ○出前授業の内容 1月27日（水）10：35～12：10 ※詳細は別紙の指導案をご覧ください！

- 1 天王みどり学園の紹介（各教科等を合わせた指導、肢体不自由・知的障害・自閉症の特性）
- 2 体験しよう（ピカピカ王国・テレパシーゲーム・音を一つに・ペアでアップダウン）
- 3 まとめ（乙武洋匡さんのエピソード 大きい目とやさしい口）
- 4 質疑応答 感想発表

### ○子どもたちの感想（原文のまま）

・天王みどり学園は、「遊び」という勉強があって、楽しそうだなと思いました。私はその理由を知って、なるほどと思いました。それは、みんなと仲良くできるようにという意味があったのです。天王みどり学園には、いろいろな人がいました。私は「大きい目とやさしい口」とあると、誰とでも友だちになれるんじゃないかなと思いました。

・天王みどり学園の先生から、だれでも苦手なことはあると言われて、私も言葉づかいでなかなか直せない所があって自分だけではないと分かりました。ピカピカ王国でも、絵を見せたり、ジェスチャーなどで表すと言葉が通じなくても、相手のほしい物が何か分かると知りました。大人になっても、相手の気持ちを考えて、行動したいと思いました。

・私は大きい目とやさしい口のどちらもすごく心にのこりました。わけは、目で友だちのいいところを見つけて、それをやさしい口で言うということです。目と口をいかして、みんなとかかわることに使ってみようと思います。

・私は、みどり学園の先生の話聞いて、人の心を読み取ることが大事なんだということが分かりました。また、私たちはかけがいのないそんざいだということを知りました。

### ○今年度を振り返って

今年度は、高校生や保護者を対象にしたボランティア講座も含めると、25回の出前授業を実施した。成果としては、8つの障害理解メニューを作成したことで、系統的に出前授業を計画したり学級づくりに活用したりする学校が増えた、居住地校交流の事前学習としてできた、他の特別支援学校と連携ができた、小学校以外から依頼があった、出前授業が総合的な学習の時間に組み込まれた、県内外に出前授業の必要性を発信できた等が上げられる。来年度は、出前授業をさらに広げるとともに、子どもたちが学んだことを実践的行動につなげられる内容を工夫したい。また、地域の園や学校が主体的に障害理解教育を推進できるように、子どもに障害を説明する際の言葉の使い方や障害者と関わるポイントをまとめたガイドラインを作成したい。

## 秋田市立港北小学校3年（97名） 「障害理解教育」指導案

日 時 平成28年1月27日（水）  
3・4校時（松・竹・梅）

場 所 集団学習室

授業者 天王みどり学園 島津 加賀谷  
港北小学校3年部

1 活動名 「相手の気持ちになって行動しよう」～大きい目とやさしい口～

### 2 目 標

- ・天王みどり学園の紹介スライドを見て、障害特性及び配慮点を知る。
- ・ペアで行う体験を通して、相手と気持ちを重ね合う大切さを体感する。

3 学習過程 準備物→プロジェクター スクリーン パソコン ペン

時間	学習活動	期待する姿	手立て・留意点
5	1 みどり学園の紹介スライドを見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みどり学園の活動に関心をもつとともに、自校の活動と比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に見通しがもてるように、最初に学習の流れを説明する。</li> <li>・自校との違いに気付けるように、特色ある学習活動を紹介する。</li> </ul>
25	2 みどり学園の友達紹介スライドを見る。 (1) 車いすを利用している友達（肢体不自由） (2) ゆっくりタイプ の友達(知的障害) (3) 不安な気持ちが強い友達（自閉症）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの障害特性と、基本的な関わり方や配慮点を覚える。</li> <li>・みどり学園の児童と実際に関わる場面をイメージしながら参加する。</li> <li>・自分たちの身近なところに障害のある人がいることを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性が伝わるように、イラストや写真を活用して説明する。</li> <li>・障害に対して肯定的なイメージをもてるように、「～があれば～できる」を強調したり、工夫している点を紹介したりする。</li> <li>・説明に意欲をもって参加できるように、質問しながら進める。</li> </ul>
35	3 「体験しよう」に参加する。 (1) 意思が伝わらない ⇒ピカピカ王国 ⇒パスデーライン (2) テレパシーゲーム ・ペアで（3回） (3) 音を一つに ・ペアで（3回） (4) ペンをアップダウン ・ペアで（繰り返し） ・ペアで(目を閉じて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚支援やジェスチャーが有効であることに気付く。</li> <li>・同じ数になるよう相手の気持ちを考えて出す。</li> <li>・2人の手と手を合わせて、タイミングよく音を鳴らすことを楽しむ。</li> <li>・ペンを落とさないように、息を合わせてしゃがんだり立ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの関心を高めるために、港北小の先生に困り感を体感してもらう。その後、学級の代表児童（各2名）にも体験してもらう。</li> <li>・スムーズに体験できるように、事前にペアを決めておく。</li> <li>・ゲームの前に職員が手本を見せてイメージをもたせる。</li> <li>・体験を楽しく共有できるように、1回ごとに評価をする。</li> </ul>
25	4 友達と仲よくする2つのポイントを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい目と優しい口の意味を理解し、日常場面で活用する気持ちをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの違いを認め合うために、乙武さんの話を紹介する。</li> <li>・2つのポイントを理解できるように、イラストで具体的に伝える。</li> <li>・感じたことを共有するために感想発表を行う。（担当：港北小）</li> </ul>